



PEACE 派遣留学報告書

| | | | |
|-----------|-------------------------------------|-----|-------------|
| | | 記入日 | 2018年 1月5日 |
| 氏 名 | よした かずき 吉田 和貴 | | |
| 所属学部・研究科 | 生物圏科学研究科博士前期課程 | 2 | 年次 (留学開始時点) |
| 学 生 番 号 | M155879 | | |
| 留 学 先 大 学 | ミエック | 大学 | (国名：ミャンマー) |
| 所属学部・学科等名 | 生物圏科学研究科 | | |
| 在 籍 身 分 | 学生 | | |
| 留 学 期 間 | 平成 29 年 11 月 24 日～ 平成 29 年 12 月 2 日 | | |

1. 留学するまで

| | |
|--------------------------------------|---|
| 留学しようと思ったきっかけ・理由 | 教授からの紹介。大学では水産資源学について学んでおり、自分の研究テーマに直接は関係ないが、東南アジアの水産物・水産業に興味があったため本プログラムへの参加を希望した。 |
| 留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?) | 渡航を決めたのは半年以上前、準備は2か月前くらいから。 |
| 事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか) | 現地でこの日に何をやるかという計画をもう少し詳しく決めておいてもよかったと思う。ざっくりとしたスケジュールで、現地で詳細を決めていったので空き時間が長い日があった。 |

2. 渡航について

| | |
|-------------------------|---|
| ビザについて | ビザの種類：教育ビザ (Education Visa) Single |
| | ビザ申請先：ミャンマー連邦共和国大使館 |
| | 提出書類：(1)パスポート原本(2)カラー写真1枚 (3.5 cm X 4.5 cm/背景-白の無地、最近のもの) (3)入国/商務ビザ用申請用紙 (4)申請者のパスポートコピー (写真のあるページ) (5)留学の場合関連大学/外国語学校の推薦状(6)教育省管轄の学校などで教える教員の方は関連学校からの推薦状(9) 取り扱い手数料¥1,000 |
| | 手続きに要した日数：2~3週間 |
| その他必要な事前手続き | 大使館へのビザ申請料振込 (詳細は下記 URL) http://www.myanmar-embassy-tokyo.net/visa2017/education-single.htm |
| 出国年月日 | 2017年 11月 22日 |
| 経路 (往路) | 広島 → 羽田 → ヤンゴン → ミエック |
| 現地での出迎え | <input checked="" type="checkbox"/> 有 (大学関係者 ・ その他) <input type="checkbox"/> 無 |
| 到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容 | ミエック大学の学生とバゴダに行ったり夜食を食べたりした。 |

| | |
|--|---|
| 留学先でかかった病気、 けが | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| 有の場合、具体的な症状 等（情報共有しても差し 支えなければ） | 下痢は免れられない。帰国前日に熱も出た（日本で診察を受けたが食あたりの可能性が高い。 数日で回復）。 |
| 留学前後での予防接種 の必要の有無 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| 有の場合、その種類、回 数、費用、受けた医療機 関名 | |
| 日常的な健康について 不安が | <input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由： |
| 留学先国の医療事情 （日本と比較して） | 病院に行っていないのでわからない。 |
| 留学先での健康管理、衛 生面について特に注意 すべきこと | 生ものは避ける。水道水は飲まない。 野犬が多い。襲ってくるようなことはないがむやみに近付かないほうがよい。 蚊が多いので気になる場合は虫除けスプレーが必要（特に外で食事する際はよく噛まれた） |
| (3) 食生活についてのアドバイス | |
| 辛いもの、油ものが多いのでお腹を下しやすい。整腸剤があったほうが良い。 | |
| (4) 服装についてのアドバイス | |
| バゴタなどの宗教施設は半ズボンでは入れないので注意。 | |
| (5) 学内外の施設・設備環境について（インターネット環境含む） | |
| 今回は JIRCAS のポケット Wi-fi を借りることができた。 渡航前に現地スタッフと相談しておき、場合によっては日本で準備しておく必要がある。 | |
| (6) 現地学生や地域との交流について（どのような、機会・きっかけがありましたか？） | |
| ミエック大学には英語学科があり、主にその学生たちと交流していた。 | |
| (7) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと | |
| 滞在中は特に感じなかった。危険な目にあうことはなかったが夜間に 1 人で歩いたりするのはあまり良くなさそう。 | |
| (8) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの | |

| |
|---|
| <p>整易剤。今回はもっていかなかったが電子辞書があると便利かもしれない。</p> |
| <p>(9) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス</p> |
| <p>毎日何をしたかを記録する為に簡単な日記を書くといい。</p> |

| | |
|-----------------------------------|--|
| <p>6. 帰国後の進路について</p> | |
| <p>卒業予定年月</p> | <p>2018年 3月 (当初の卒業予定年月 年 月)</p> |
| <p>卒業が遅れる見込みの場合、その理由</p> | <p><input type="checkbox"/>4年次に留学したため <input type="checkbox"/>単位不足のため <input type="checkbox"/>新卒で卒業するため <input type="checkbox"/>その他(具体的に)</p> |
| <p>現在の状況および今後の予定・進路等</p> | <p>4月から徳島県職員</p> |
| <p>就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫</p> | |

| | | |
|--|--|-------------|
| <p>7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等</p> | | |
| <p>書籍、サイト名</p> | <p>詳細(出版社、URL等)</p> | <p>コメント</p> |
| <p>マンマービザ・大使館申請 種類と取得方法 日本橋夢屋</p> | <p>https://www.tokutenryoko.com/service/visa/ /19</p> | |

| |
|---|
| <p>8. 留学を振り返って</p> |
| <p>留学を終えての感想： 今回の留学は2週間にも満たない短期間のものであったという間に終わってしまった。4月から就職するので、長期で海外に行くことは難しくなると思うが、また機会をつくって海外に学びに行きたいと思っている。</p> |
| <p>後輩へのメッセージ： 海外に出てみると日本で生活しているだけでは思いもよらないことに出会います。それらは単に思い出になるだけでなく、自分の価値観や生き方にも影響しうるものです。少しでも海外に興味がある人は参加することをオススメします。ただ行くだけではもったいないので、充実させる努力はしましょう。行動力は大事です。もちろん環境や文化が違うことを念頭においておくことは大事ですが変に恐れる必要はありません。積極的に多くのことを学んでください。</p> |

9. 自由記述 (1200 字以上)

- ・「学習に関すること」や「生活に関すること」について自由に書いてください。
- ・写真を2〜3枚貼り付けてください。(各写真の容量を100KB程度まで小さくすること)

私がミャンマーを訪れた11月・12月は乾季にあたり、気温は約30度前後でした。時期次第では40度近くになったり雨が多くなったりするので比較的過ごしやすい時期に滞在していたことになります。私は今回の留学でミャンマーにおける水産業について学ぶことを目的としていました。そこで訪れた場所がミエックです。ミエックはミャンマーの中で最も漁業が盛んな地域で、沿岸ではたくさんの漁船が見られます。ここでとられた魚の多くは別の地域や海外に届けられるようで、ミエックの漁師たちの収入源となっています。ミエックの港の向かいにある島には大規模なカニの養殖場や、家畜用のフィッシュミールの工場があります。ここで生産されたものは国内外問わず輸出されているようです。郊外の方へ行くと多くの漁村が見られます。こちらは雰囲気が街の方とは異なっていて、昔のライフスタイルが維持されているようです。何度か訪れましたが、漁師たちは魚はもちろんカキやイガイ、小エビを捕っているようでした。ミエックでは漁業が盛んだけあって、新鮮な海産物を手ごろな値段で味わうことが出来ます。

現在、JIRCAS (国際農林水産業研究開発センター) はミャンマーの研究者である Htoo Thaw さんと共同でカキの養殖プロジェクトを始めようとしています。これまでミャンマーでは海面養殖がおこなわれていませんでした。そこでミエックでたくさん獲れ、養殖に餌のコストがかからない、という利点からイワガキの養殖を試みています。このプロジェクトはまだ始まったばかりで、今回の留学では JIRCAS 研究員の児玉さんに協力してもらい、その事前調査に参加させてもらいました。つい先日はカキの多くとれている海域で環境分析を行いました。海域の栄養塩の量や塩分濃度を分析することで、カキ養殖に効率の良い場所を見つけることが出来ます。別の日にはミエック大学を訪問しました。ミエック大学にはマリンサイエンス部があります。そこで彼らの研究の成果や、標本サンプルなどを見せてもらいました。また、ミエック大学の英語学科の学生を紹介してもらいました。彼らはまだ1年生で、英語が苦手な私のそんなに変わらないレベルでした。同じ英単語でも彼らと私では音が違うことがあり、伝わりにくいことも多々ありますが、英語を学びたいもの同士で切磋琢磨しました。現地での暮らしは不便もありますが、それも含めて日本ではできない貴重な経験が出来ていると感じました。



街はバイクだらけで危なっかしい



海は漁船でいっぱい



水質調査の様子